

木簡(1)

(2)は第四層出土、上端左右に切り込みをいれ、下端を尖らせたものであるが、墨痕は認められない。

なお、墨書については、平川南氏の御教示による。

9 関係文献

川西町教育委員会

『道伝遺跡―第2次重要遺跡確認調査概報』

一九八二年
(藤田有宣)

山形・笹原遺跡

- 1 所在地 山形県米沢市窪田町大字笹原字台
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)七月～九月
- 3 発掘機関 まんぎり会
- 4 調査担当者 手塚孝・亀田晃明
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(米沢)

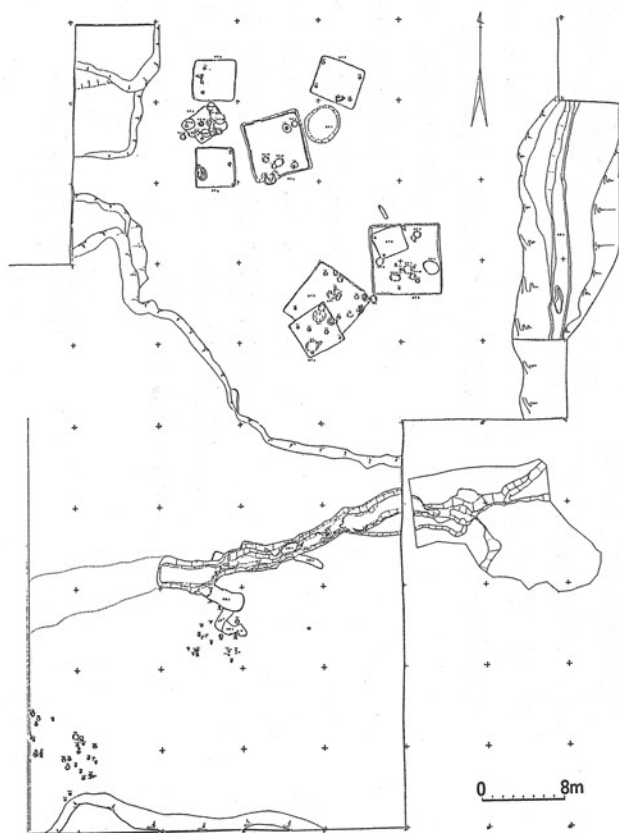
笹原遺跡は米沢市街地の北東3kmに当り、最上川の本流となる松川によって形成された自然堤防及び河岸段丘上標高二七mに位置する。一九八〇年(昭55)に笹原地区一帯が米沢市浄水管理センターと住宅団地造成の開発が計画されることとなり、米沢市教育委員会

は分布調査と試掘調査を実施した。

その結果、八世紀から九世紀に亘る三万㎡の遺跡が存在することが判明し、緊急発掘調査を地元考古研究会グループ「まんぎり会」に要請することになった。

まんぎり会は翌一九八一年に二ヶ月の日程で調査を行い九棟の竪穴住居跡、土壇、小規模な掘立柱穴群等一四七基を検出している。

遺物は旧最上川と合流していたとみられる溝状遺構を中心として



笹原遺跡遺構配置図

多量の須恵器・土師器とともに円面硯・墨書土器・木簡や櫓等の木製品、それに六俵分相当の炭化米が検出されている。

8 木簡の釈文・内容

木簡は三点検出しており、いずれも八世紀中葉に比定されるものである。釈文は次の通りである。

9 関係文献

手塚孝・亀田英明編

『笹原』

米沢市都市計画課・まんぎり会
米沢市教育委員会

一九八一年

(手塚 孝)

(1) × □ 宝私田曾 □ □

(150) × 35 × 3 011

(2) □ ×

(94) × (15) × 5 055

(3) □ □ □ □ ×

(89) × (25) × 2 055